

会員の ひろば

北海道医報では、特定の個人・団体を誹謗、中傷する内容等を除いた幅広い多様性のあるご意見を掲載させていただいております。

近況：一難去ってまた一難

帯広市医師会
高木皮膚科診療所

たかはし ひでとし
高橋 英俊

私事ながら、昨年末から災難続きとなっている。事の発端は昨年10月頃より1年ほど放置していた心房細動から徐々に右心不全が進行し、階段の上り下りがつらくなってきたことである。家族から再三、循環器内科を受診するよう言われていたが無視していたことのつげが回ってきたようだ。そうこうするうちに、12月上旬、札幌での講演会の移動の際に当日降った雪がブラックアイスバーンとなっているのに気づかず道路中央で転倒、右足首脱臼、三果骨折をしてしまった。転倒した際に立ち上がることができず近くを歩いていた人に路肩に引っ張ってもらい車に何とか轆かれずに済んだが、その日の講演会および年末、年始に予定した3件ほどの講演会すべて穴をあけてしまった。骨折は市立札幌病院で手術を受けることとなったが、心臓の状態が思わしくないことから3週間ほど状態が落ち着くまで待つ羽目になり、やっと大晦日に退院ができた。心臓の方は相変わらずの状態、年明け早々市立札幌病院に再入院しアブレーション治療を受け何とか心不全も落ちつき、2か月ぶりに帯広に戻り診療に復帰した。

家族はもちろんのこと、治療していただいた先生方、当院のスタッフには感謝しかない気持ちでいっぱいである。

また、診療復帰前に厄払いをし、これで大丈夫と思った矢先2月末夜半に当院で火災が発生、5月いっぱい休診となってしまった。近隣の先生方に多大なご迷惑をかけてしまったことをこの場をお借りしてお詫びとお礼を申し上げます。

現在、分院として隣のビル1階で診療をしている。診療再開に際して診療所内でお祓いを行っていた。神事が無事終わりこれで大丈夫と思った途端、供えていたバナナの房がどさっと床に落ちてしまった。まだ厄は完全に払われていないと感じ、今も戦々恐々と診療している今日この頃である。

マスク 口罩地に盈つ

上川北部医師会
士別市立上士別医院

たけうち みきお
竹内 幹夫

綿津見を 超えて遙けき 西方の 大き陸地の
奥つ方 唐土の地の 凶霊 獣商ふ 市場より 涌
出でし如 速やかに 地を覆ふ事 蔓の如 海路遙
けく 玉響の 旅人に潜みて 容易も 群界超え
呉竹の 世に蔓て 荒金の 土の面に とどまらず
船の上にも 勇魚取り 海の中にも 広がりに
隔てをしらず 取り憑きぬ

げに冠の 病毒は その振る舞ひに 謎多く 防
ぐ由すら 決め手なく 疫病流行るは 寒き冬 室
を早くに 温めむと 造りめざまし 今様の 栖の
良きも 仇となる 窓なき楼閣 多となり 瘴気の
祓へも 難くなり ただ徒に 性もなく 風を送り
て 雅なる 天をいや摩す 堂殿舎 気をば変へむ
と 諍も ただ悪様に 行きめぐり かへりて疫病

広まりぬ 行き死ぬ民草 地に満ちて 冠の疫
治するわざ 誇ろふ国は 多なりて 病苗開発 競
へども 長きに渡りて 戦無く 国の守りに 関わ
ると 群臣ども 気にかけて 打ち捨てられし 元
辿り 方便を知らに打ち迷ひ 盗人捕らえて 縄を
なふ 見苦しすゑと なりにけり 高名なりし 道
化者 流行りの 女役者亡くなりて 多寡括りたる
民草も やうやく 危ふさ悟りたり

詮方も無く 取り敢へず せめて鼻口 マスクに
て 覆はむとすれど これもまた 安さ求める 世
間にて 作るに甲斐なき マスクをば 日本国内で
作らむと 思はむ人は現れず 困じたる人 世に
あふる

マスクの値も 高くなり 五倍十倍 なりにけり
口罩の顔が 世に溢れ 女は口紅 打ち捨てて 口
罩の仕出しに 妍競ふ 水着マスクに ブラマスク
覆ひの種も とりどりに 鮮やか口罩が 地に盈
ちて 百花繚乱 なりにけりかも

反歌 二首

基督もマホ師も瞠目羨まむマスク教地に盈つ津波
の如くに

粉黛の世を揺るがすか彩マスク百花繚乱妍を競へ
り